

# 第 103 回 地区内中小企業 景気動向調査結果

(平成 26 年 7 月～ 9 月実績)

(平成 26 年 10 月～12 月予想)

\*\*\*\*\* 目 次 \*\*\*\*\*

地区内データベース	.....	1
全国 ・ 全道の概況	.....	4
調査の概要	.....	5
全業種総合	.....	6
製造業	.....	9
建設業	.....	11
卸売業	.....	13
小売業	.....	15
サービス業	.....	17
特別調査	.....	19

# 地区内データベース

## 1. 人口・世帯数動向 (平成26年9月末)

町 村 名	人 口			世 帯 数		
	人 数	前年同月比	3 月 末 比	世 帯 数	前年同月比	3 月 末 比
平 取 町	5,505	18	17	2,658	74	19
日 高 町	12,835	-320	11	6,382	-116	26
新 冠 町	5,748	-31	22	2,701	7	20
新ひだか町	24,331	-480	-23	12,071	-151	29
浦 河 町	13,331	-209	-40	6,890	-49	-5
様 似 町	4,717	-137	-7	2,252	-24	6
え り も 町	5,145	-90	28	2,156	3	34
広 尾 町	7,501	-157	28	3,490	-7	45
大 樹 町	5,863	-38	25	2,653	4	37
日高・十勝地区合計	84,976	-1,444	61	41,253	-259	211
札 幌 市	1,934,941	6,459	6,009	1,014,700	11,031	6,936
江 別 市	120,335	-467	138	55,236	315	424
石 狩 市	59,449	-632	-328	26,995	36	-6
北 広 島 市	59,664	-244	-53	26,693	218	133
恵 庭 市	68,950	74	199	31,338	285	272
千 歳 市	95,426	39	726	46,640	386	638
石狩地区合計	2,338,765	5,229	6,691	1,201,602	12,271	8,397
苫 小 牧 市	174,136	-275	252	86,355	638	443
厚 真 町	4,708	-33	-4	2,103	13	13
む か わ 町	9,069	-227	-30	4,496	-32	35
胆振地区合計	187,913	-535	218	92,954	619	491
営業区域合計	2,611,654	3,250	6,970	1,335,809	12,631	9,099

(資料出所：各市町村)

\*平取町、日高町、えりも町の人口に外国人登録者数は含まれていません。

## 2. 企業倒産状況 (平成26年7～9月中)

千万円

単位：件・千万円	件 数	負 債 金 額	件数前年同期比	金額前年同期比
苫 小 牧 管 内	1	3	-2	-17
(内・新冠町～えりも町)	0	0	0	0
業種および件数				
地区および件数				
北 海 道	73	1,507	-3	251
全 国	2,436	40,205	-228	-15,397

(資料出所：東京商工リサーチ)

### 3. 労働需給状況

平成 26 年 7 月

	浦 河 (人・倍)	全 道 (人・倍)	前年同月比(%・ポイント)		前月比(%・ポイント)	
			浦 河	全 道	浦 河	全 道
月間有効求人数	913	80,190	19.82	7.12	3.87	1.07
月間有効求職者数	814	96,298	-7.71	-9.36	-5.90	-4.09
月間有効求人倍率	1.12	0.83	0.26	0.13	0.10	0.04

平成 26 年 8 月

月間有効求人数	854	79,439	11.78	5.30	-6.46	-0.94
月間有効求職者数	817	93,763	-6.09	-8.40	0.37	-2.63
月間有効求人倍率	1.05	0.85	0.17	0.11	-0.07	0.02

平成 26 年 9 月

月間有効求人数	870	82,058	13.13	5.99	1.87	3.30
月間有効求職者数	797	92,792	-10.55	-7.45	-2.45	-1.04
月間有効求人倍率	1.09	0.88	0.23	0.11	0.04	0.03

(資料出所：浦河公共職業安定所)

### 4. 浦河町・新ひだか町静内 金融機関預金・貸出金残高 (平成 26 年 9 月末現在)

単位：百万円・%

預 金			貸 出 金		
残 高	前年同月比	前 月 比	貸 出 金	前年同月比	前 月 比
123,300	-0.67	-0.76	49,510	-6.24	0.81

(資料出所：浦河・静内金融協会)

### 5. 浦河町・新ひだか町静内 手形交換高

平成 26 年 7 月

	当 月	前年同月比 (%)	前月比 (%)
交 換 枚 数 (枚)	304	-45.71	-26.92
交 換 金 額 (百万円)	335	-66.16	-17.08
不渡り手形枚数 (枚)	1	-97.14	-50.00
不渡り手形金額 (百万円)	1	-94.12	0.00

平成 26 年 8 月

交 換 枚 数 (枚)	215	-39.09	-29.28
交 換 金 額 (百万円)	229	-66.37	-31.64
不渡り手形枚数 (枚)	0	-100.00	-100.00
不渡り手形金額 (百万円)	0	-100.00	-100.00

平成 26 年 9 月

交 換 枚 数 (枚)	340	-37.50	58.14
交 換 金 額 (百万円)	334	-59.71	45.85
不渡り手形枚数 (枚)	0	-100.00	—
不渡り手形金額 (百万円)	0	-100.00	—

(資料出所：浦河・静内金融協会)

## 6. 建築確認申請

単位：件数

		件 数	前年同期比	前四半期比
当 金 庫 管 内	26/ 7～26/ 9 月中の申請	19	-19	-37
(新ひだか町～広尾町)	26/ 4～26/ 9 月迄の累計	75	-15	

(資料出所：各町村)

## 7. 気象情報

平成 26 年 7 月中

	本 年			平年偏差・平年比		
	気温 (℃)	降水量 (mm)	日 照 時 間	気温 (℃)	降水量 (%)	日照時間 (%)
浦 河	18.7	152.0	188.3	1.5	104.47	171.96
広 尾	17.9	161.0	125.5	2.0	93.33	119.98

平成 26 年 8 月中

浦 河	20.0	218.0	166.8	0.1	136.34	121.31
広 尾	19.5	343.5	139.4	1.1	147.24	117.54

平成 26 年 9 月中

浦 河	17.0	120.0	218.2	-0.3	85.17	136.80
広 尾	16.2	165.0	157.1	0.2	62.43	115.94

(資料出所：国土交通省 気象庁)

## 全 国 ・ 全 道 の 概 況

信金中央金庫がまとめた全国の信用金庫の窓口からみた中小企業の景況によると、平成26年7～9月期(今期)の業況判断D Iは $\Delta 9.3$ と、前期比2.4ポイントの改善となった。ただ、前回調査時点における今期見通し( $\Delta 7.7$ 、前期比4.0ポイントの改善見通し)に比べれば、小幅の改善にとどまった。収益面では、前年同期比売上額および収益の判断D Iが、それぞれ $\Delta 1.6$ 、 $\Delta 8.6$ と、横ばい圏の動きだった。販売価格判断D Iは5.6と、3ポイント以上低下した。人手過不足判断D Iは $\Delta 16.2$ と不足感が強まった。業種別の業況判断D Iは不動産業を除く5業種で改善した。地域別には11地域中、改善7地域、低下4地域とまちまちだった。平成26年10～12月期(来期)の予想業況判断D Iは $\Delta 4.2$ 、今期実績比5.1ポイントの改善見通しとなっている。業種別には6業種すべてで、地域別には北海道を除く10地域で改善する見通しにある。

日本銀行札幌支店が9月25日発表した金融経済概況によると、北海道地域の景気は、緩やかに回復している。すなわち、最終需要面の動きをみると、公共投資は、高水準で推移している。輸出は、振れを伴いつつも増加している。個人消費は、雇用・所得環境等の改善を背景に、回復している。観光は、好調さを維持している。住宅投資は、減少している。生産は、国内外の堅調な需要を背景に、増加している。雇用・所得情勢をみると、労働需給は着実に改善している。雇用者所得は回復している。

需要項目別動向

- 個人消費・・・雇用・所得環境等の改善を背景に、回復している。消費税率引上げによる駆け込み需要の反動減は、一部の耐久消費財を除き、払拭されている。大型小売店では、食料品の販売が堅調であるほか、衣料品の販売が秋物を中心に持ち直していることに加え、高額商品については、消費税率引上げによる駆け込み需要の反動減が払拭されていることから、回復している。コンビニエンスストアでは、新規出店効果や顧客層の広がりから、弁当や総菜などを中心に売上は堅調に推移している。乗用車販売では、消費税率引上げによる駆け込み需要の反動減の影響が残るものの、新型車を中心に底堅く推移している。家電販売は、パソコンの売上は一服しているものの、白物家電や薄型テレビなどでは、単価の高い商品の需要が高まっており、着実に回復しつつある。観光については、好調さを維持している。国内観光客は高水準であった前年並みで推移しているほか、外国人観光客はアジアを中心に引き続き増加している。もっとも、8月は前半を中心に、悪天候の影響で道外観光客が前年を下回った。支出額は、内外観光客ともに宿泊単価が幅広い地域で上昇しているほか、土産品の販売が堅調に推移しているなど、増加傾向にある。
- 公共投資・・・高水準で推移している。公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額(年度累計)をみると、高水準で推移している。
- 住宅投資・・・減少している。新設住宅着工戸数をみると、持家は消費税率引き上げによる駆け込み需要の反動などから、前年を下回っている。分譲は建設業者の人手不足や建設コストの上昇などから、減少傾向にある。貸家は前年を上回った。なお、貸家の建設コストは上昇傾向にある。
- 雇用・所得・・・労働需給は着実に改善している。雇用者所得は回復している。有効求人倍率(常用)は、幅広い業種で人手不足感が続いており、新規求人数が増加していることなどから、前年を上回って推移している。この間、新規求人数に占める正社員比率も高水準を維持している。雇用者所得は、常用労働者数が増加しているほか、一人当たり名目賃金も、所定内給与や夏季賞与の増加から上昇しており、回復している。